

コケコケカムイ

北海道爬虫両棲類研究会 会誌 Vol. 1



CONTENTS

◆ 北海道爬虫両棲類研究会設立の所感

北海道爬虫両棲類研究会を設立するにあたって（徳田龍弘）

爬虫両棲類とのよりよい共存関係を築くために（照井滋晴）

◆ 特集：北海道の爬虫両棲類 第1回「エゾアカガエル」

◆ ESSAY

北海道でヘビを調べるということ（徳田龍弘）

◆ 活動計画

◆ インフォメーション



北海道爬虫両棲類研究会を設立するにあたって

北海道爬虫両棲類研究会 会長 徳田 龍弘

会員の皆様、はじめまして。この度、北海道爬虫両棲類研究会を立ち上げ、会長に就任した徳田龍弘です。私自身若輩者であり、当会もまだ赤ちゃんのような、立ち上ったばかりの研究会ですので、会員の皆さまの助けやアドバイスで良い会にしていきたいと願っています。研究会を立ち上げたのは、北海道の両生類や爬虫類の研究熱を上げていきたいという目的があります。私は日本爬虫両棲類学会に報告文を書くことがあります、初めて提出した時は「私の一個人の小さな研究で学会に提出していい内容なのだろうか？」と悩むことがありました。実際のところ学会はとてもオープンで問題なく、私の報告も受理して頂けましたが、皆さんの中には同じように悩み、敷居を高く感じてしまう方もいると思います。そんな方々にも気軽に投稿でき、また本格的な研究内容も扱えるような会にしたいと思っています。私が「北海道爬虫類・両生類ハンディ図鑑」を作る為に資料集めに奔走した際、「北海道の両生類や爬虫類の情報は、まだまだ人目にふれるものが多くないな」と思いました。例えば「雄武町にはどのヘビがいてどのヘビがないの？」「エゾサンショウウオはどこで冬眠しているの？」といった情報を裏付けられる資料はなかなか見つからないものです。会員の皆様の小さな疑問の積み重ねがこの研究会を育て、この会が「両生類や爬虫類が人と上手に暮らしていく世の中」を作る助けになっていけばと思います。



爬虫両棲類とのよりよい共存関係を築くために

副会長 照井 滋晴

北海道爬虫両棲類研究会が設立されました。この研究会は、北海道をフィールドとして爬虫両棲類の調査研究を行う方々や爬虫両棲類を愛する方々が情報を共有し、北海道に生息する爬虫両棲類の生態解明やその生息地の保護・保全の一助となるような活動を実施することを目的としています。また、北海道の爬虫両棲類は、道外と比べると種数こそ少ないので、とても魅力的な種ばかりです。その魅力をこの会から全国へ発信していくとも思っています。これらの目的を達成するためにも、今後は会誌や会報の発行に加え、さまざまなイベントなどを実施していきたいと考えております。

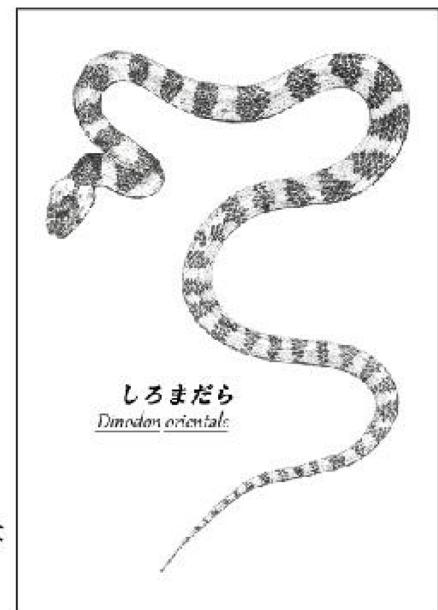
まだ立ち上ったばかりの研究会ですが、この研究会が充実していくよう尽力していきますので、会員の皆さんのご協力を切にお願い致します。この研究会の活動が、人間と爬虫両棲類とのよりよい共存関係を築いていくための第一歩となることを心から願っております。

北海道でヘビを調べるということ

徳田 龍弘



私は20年ほど本州で暮らし、沖縄などに通いながらヘビの写真を撮っていました。南方は種類が多く個体数も多く、とても楽しんでいましたが、転職などにより故郷である北海道に戻ってきました。初めのうちはヘビも5種類しかいないことに不満を持っていましたが、色が薄くて美しいアオダイショウ、縞のないシマヘビ、腹の黒いジムグリなど、今まで見てきたはずの普通種が、北海道では「何かが違う」ところを感じさせてくれました。しかし、これを誰かに伝えるにも客観的な根拠も出すことも出来ず、何とかしたいと思っていたことから小さな研究を始め、図鑑を出すまで行動してくることが出来ました。しかし北海道には、まだ生態に謎の多いシロマダラというヘビもいます。2011年にシロマダラが石狩市で生きている状態で捕まり、その個体が卵を産んで孵化するなど劇的な発見が続きました。しかしそれでも北海道でシロマダラが野外で見つかった例は10例にも満たず、道内でもどういう分布をしているのかなど、わからないことだらけです。次々と私に疑問を与えてくれる北海道のヘビは、私の中の常識を覆したり、調べることの面白さを与えてくれます。今はシロマダラの形などが本州のものと北海道で違いがあるのかどうかを調べています。今のところ見た目にほとんど違いはないですが、頭の鱗の並びには少しあげがあります。しかし、この「クセ」はたまたまなのか、北海道の個体群の特徴なのかは、調べた個体数が少なすぎるので、まだ結論をつけられる状態ではありません。今回の鱗のクセについては今後も研究を進めていくための情報として、「石狩で今回捕まったシロマダラはこんな特徴があったよ」という形で世の中に出していく必要があると思います。この報告を見て、興味を持った人が本州や四国九州で調べてくれるかもしれないですからね。また別の話ですが「腹の白いジムグリ幼蛇が、成長すると腹が黒くなっていくこと」は北海道でフィールドをする私にとっては普通のことでしたが、道外の方々と話していたところ、腹白のジムグリが腹黒に成長するということは確認できていないようでした。そこで私個人の知識として残すより、文章化して知識を共有することは大切だと再認識しました。このジムグリの件は円山動物園に協力いただいて実際に腹の白いジムグリを育てて頂き、腹が黒くなっていく様子を学会に報告することができました。きっと北海道に来なかったら、一種一種のヘビにこれほど深く注目したり、研究しようと思ったりしなかったでしょう。5種類の蛇しかいない北海道に感謝をしつつ、これからも研究を続けていきたいと思います。



特集

北海道の爬虫両棲類



エゾアカガエル

雪解けが進み、植物が芽吹く頃、視覚的に春を実感する方が多いと思います。でも、中にはどこからともなく聞こえてくる「クア、クア、クア、クア」というメスを呼ぶ鳴き声で春を実感する方もいらっしゃるのではないかでしょうか？その声の主が今回紹介する『エゾアカガエル』です。

◆いろいろなアカガエル

エゾアカガエルはその名のとおりアカガエルの仲間です。アカガエルの仲間は、日本では北海道から沖縄まで広く分布しています。北海道のエゾアカガエルの他にも、本州、四国、九州にはニホンアカガエルやヤマアカガエル、沖縄にはリュウキュウアカガエルなどがあります。

◆かわいい神さま

エゾアカガエルというカエルの名前は聞きなじみがあるという方が多いと思います。エゾアカガエルの学名は、*Rana pirica*（ラナ ピリカ）というのですが、「ピリカ」という言葉はアイヌ語で、「かわいい・美しい」という意味を持っています。また、アイヌの方々はカエルの事を「コケコケ鳴く神」という意味の言葉で「コケコケカムイ」と呼びました。実は本会報の名称もこの言葉からきています。

◆寒さの残る早春の産卵

エゾアカガエルは、雪解け直後の4月～5月頃に繁殖期を迎えます。ただ、標高の高いところでは7月頃の場合もあります。繁殖期を迎えた雄は左右の頬にある鳴囊を膨らませてしまいに鳴き意中の雌を探します。無事に雌を見つけることができた雄は雌に抱きつき、ともに産卵の時を迎えるのです。1匹の雌は約700～1000個の卵を産みます。産卵が集中する池などでは何匹もの卵塊が集まつた大卵塊を目にする事もできます。場所によって



▲ エゾアカガエル



▲ 鳴囊を膨らませて鳴くエゾアカガエル

はサンショウウオの卵塊も同所的に見ることができます。そんな場所ではサンショウウオの幼生とオタマジャクシの静かな戦いを見る事ができるのです。



◆オタマジャクシの変身能力

エゾアカガエルのおたまじゃくしは実は変身能力を持っていました。その能力はエゾサンショウウオの幼生のような天敵がいるときに発揮されます。獰猛なエゾサンショウウオの幼生はオタマジャクシを食べようとします。でも、オタマジャクシだって食べられたまつものじゃありません。そんな時こそ変身です。食べられまいとしたオタマジャクシの尾びれの丈が高くなり、頭も大きく膨れていきます。生き残るためにオタマジャクシも必死なのですね。



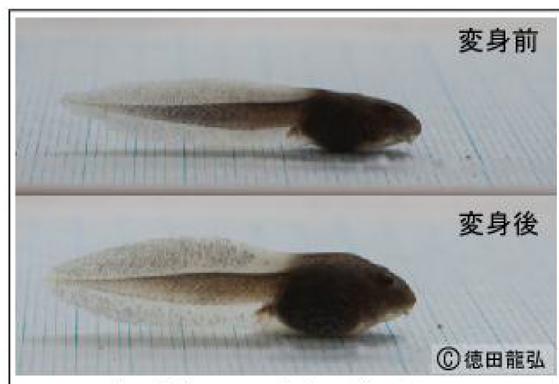
▲ エゾアカガエルのペア

◆水中から陸へ

水中を元気に泳いでいたオタマジャクシも後足が生え、前足が生え、尾びれがなくなり、夏頃に上陸の時を迎えます。陸に上がったエゾアカガエルは、大きく成長するために小さなクモや昆虫、土壤動物を探して食べます。逆に鳥類やほ乳類などに食べられてしまう危険性だってあります。晩秋の頃、そういった危険から逃れ、生き残ることができたエゾアカガエルたちは、冬という次の試練に備えるため、冬期に凍ることのない湧水の中やその周りの土の中などに移動をはじめます。越冬場所に移動したエゾアカガエルは寒い冬が終わり春を迎えるまでじっとして過ごすのです。こうしてエゾアカガエルの1年が過ぎていきます。



▲ エゾアカガエルの卵塊



▲ エゾアカガエルのオタマジャクシ

いろいろなところで目にすることも多いエゾアカガエルですが、季節によって違った顔を見せてくれます。春の水たまり、夏の森の中、秋の湧水部などでエゾアカガエルに会いに行ってみてはいかがでしょうか？

・執筆: 照井 滋晴(てるいしげはる)
北海道爬虫両生類研究会副会長。

活動計画

- ◆ 北海道爬虫両棲類研究会 会誌「コケコケカムイ」の発行

実施時期：2012年10月

- ◆ 北海道爬虫両棲類研究会 会報第1号出版

発行時期：2012年12月（10月末：投稿論文募集締切り）

- ◆ 北海道爬虫両棲類研究会 第1回大会開催

開催時期：2012年12月8日（土）、9日（日）（10月：参加者募集）

会場：札幌コンベンションセンター 〒003-0006 北海道札幌市白石区東札幌6条1丁目

INFORMATION

【ホームページを開設しました】

北海道爬虫両棲類研究会のホームページができました。ぜひご覧下さい。

URL : <http://koke-koke.com/>

【図書】

北海道爬虫類・両生類ハンディ図鑑

著者：徳田龍弘

内容：北海道に生息する爬虫類・両生類が豊富な生態写真と詳しい解説文で紹介されています。

ISBN 978-4-89453-592-3

定価：1,500+税

発行日：2011年3月31日

発行：北海道新聞社



【会員・ご寄附の募集】

ご支援をよろしくお願いします。

会費・ご寄附は下記の郵便振替口座まで

店名：九〇八 店番：908 口座番号：5556894

記号：19060 番号：55568941

預金種目：普通預金

加入者名：北海道爬虫両棲類研究会

《入会金》 0円（個人・団体問わず）

《年会費》

①正会員 個人 3,000円 団体 10,000円

②賛助会員 個人 5,000円 団体 20,000円

③家族会員 1,500円

《寄付》

※寄付金の使途については年度末に必ずご報告致します。

《表紙写真》

- ・種名：シロマダラ
- ・撮影日：2011年6月
- ・撮影場所：石狩市
- ・撮影者：徳田 龍弘
- ・解説：トカゲ類を主食とする夜行性のヘビ。北海道では目撃情報が非常に少ない。



▼本号に登場したシロマダラは北海道では非常に希少なヘビです。野外で見つけた、見たことがあるという方は、ぜひ当会まで御一報下さい。皆様のご協力ををお願い致します。

編集者

NPO法人 環境把握推進ネットワーク-PEG

代表 照井 滋晴

〒085-0816 鈴鹿市貝塚1丁目10-15 貝塚MS101

TEL : 0154-65-9184

E-mail : info-peg@dg7.so-net.ne.jp

編集後記

コケコケカムイ第1号を発行することができました。まだまだ未熟者ですが、みなさまに楽しく読んでいただける会誌を作れるよう精進致しますのでよろしくお願いします。